



Title	BUCH=SCHUMUCH （本の装訂意匠）
Author(s)	浜野, 節朗
Citation	デザイン理論. 1979, 18, p. 42-47
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53692">https://doi.org/10.18910/53692</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



# BUCH=SCHUMUCH



(本の装訂意匠)

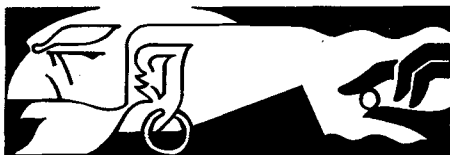
# 本

の装訂に関しては、我国に洋装の技術が普及した明治中期より、多くの人々によって様々な美しい本が造られ世に贈り出されてきた。

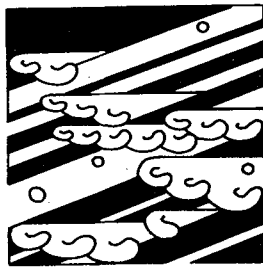
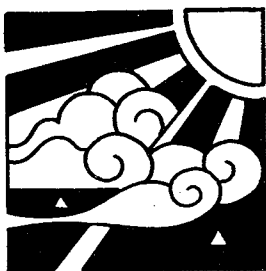
造本作業のうちで、本文の字組や割付けと同時に最もグラフィックな能力を要求されるのが装飾のデザインである。挿画としてあらかじめ本文中に、しかるべき空間を割譲されている場合を除いて、その多くは極めて限られた空間に最も効果的にしかも本文と調和して用いられる。さらに表現の動機は本文の主題に基づき、表現の様式は終始一貫しなくてはならない。色彩も印刷上の制約から、特殊な場合を除いては単色、又は2度刷りで扱われる事が多い。

ここで誌上発表する仕事は、私があるプライベートプレスをイメージして意匠したものの一部で、主題は欧州の妖精譚である。2度刷りを前提として意匠したもので、スミ版しか御紹介できないのが残念である。

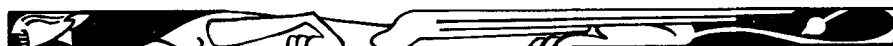
□タイトルヘッドの装飾



☐ 章頭の装飾

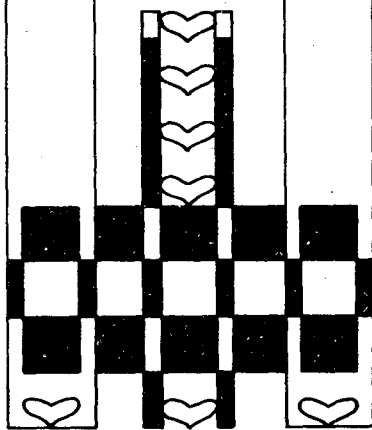
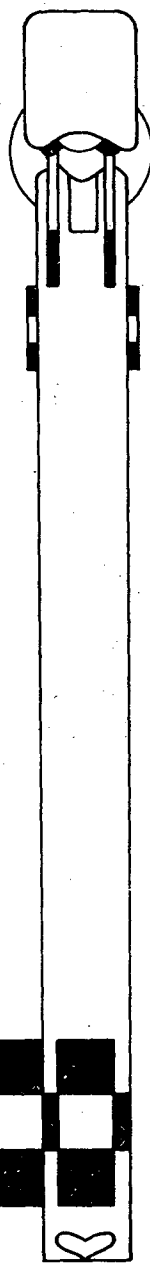
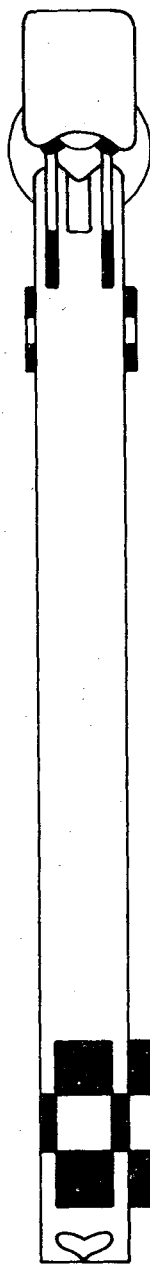
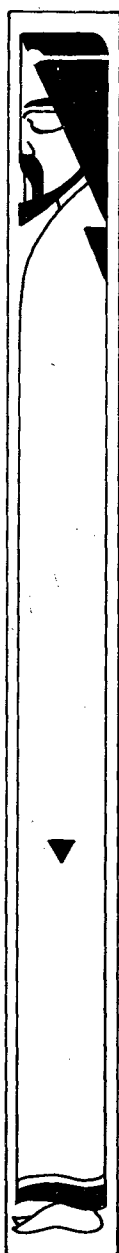
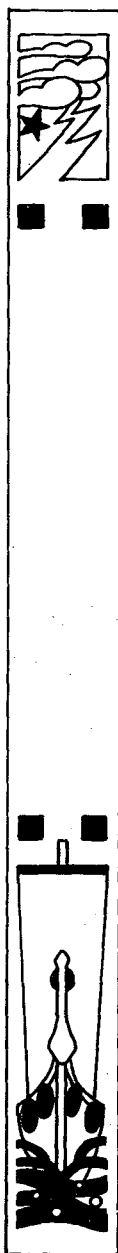


☐ 本文天地のイルミネーション

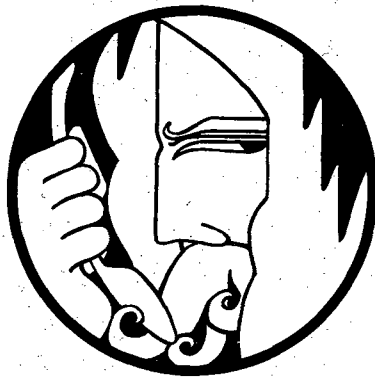


□ 背表紙の装飾

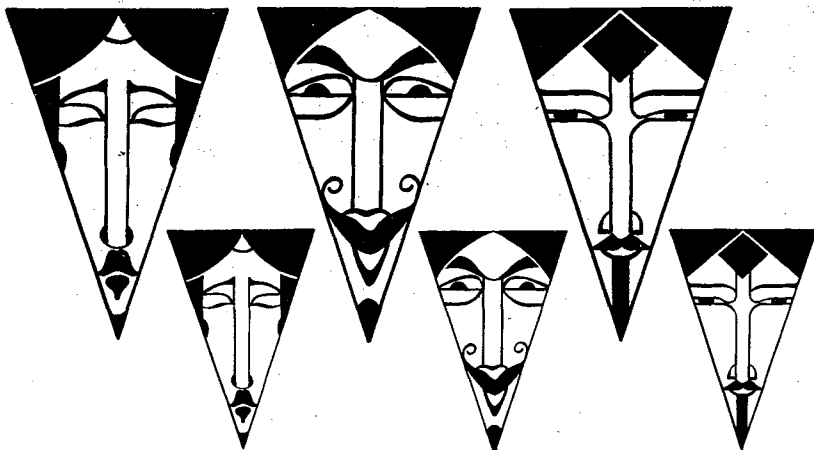
□ 表紙タイトルのイルミネーション



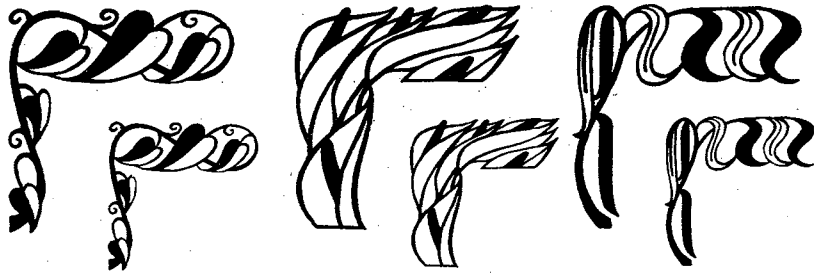
□ 裏表紙のスポット装飾



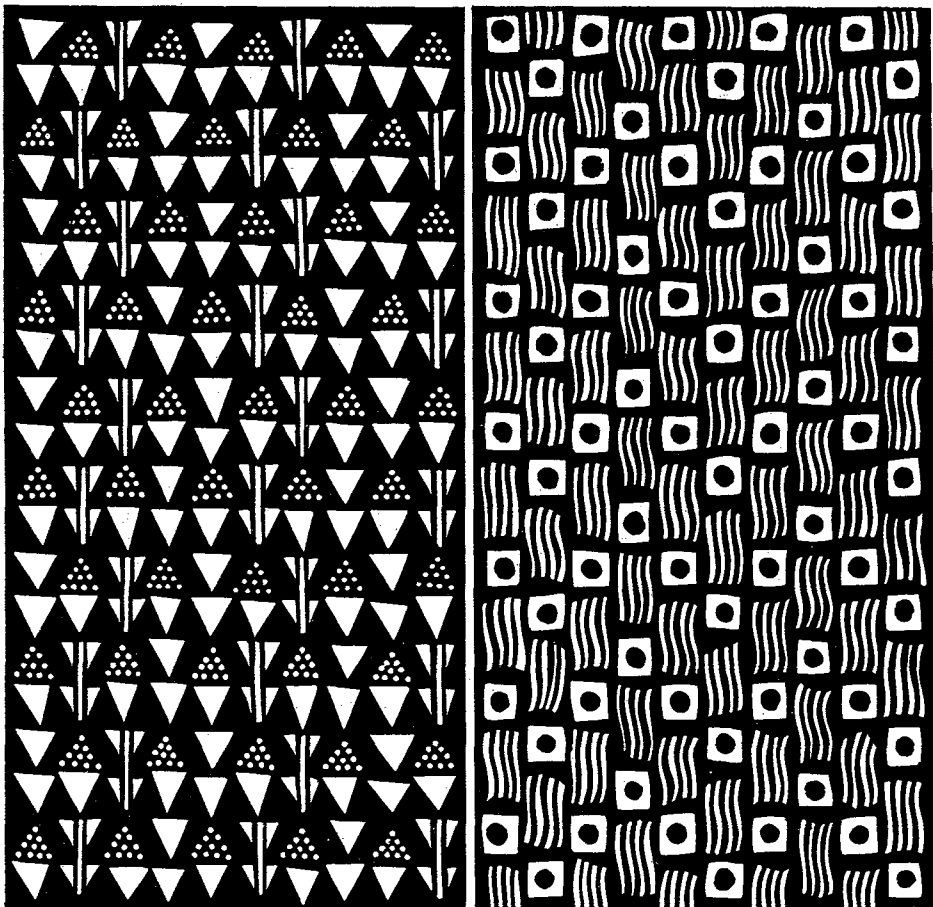
□ 巻尾の装飾



□ コーナーの装飾



□ 見返し頁の装飾



□ 蔵書票のデザイン

